

積丹町の分収造林事業について

積丹町の分収造林事業は、昭和39年から始まり現在約629haの分収造林地がありますが、新植事業については概ね終了し、近年は森林を育てる保育事業に重点をおいています。

分収造林地は、大きく4団地に分かれています。近年植林が行われた神岬団地については、積丹半島の先端部に位置し、日本海からの強風と潮風の被害対策として、新植の際に残幅（5

mの中で植付をしない所）の広葉樹等を極力伐採せずに、防風林的機能を持たせています。又、植栽樹種の選定に当たっては、トドマツを長年にわたり植栽してきましたが、海岸に面した一部の造林地の塩風害やオオスジコガネの周期的な異常発生等を考慮して平成4年よりトドマツからアカエゾマツへの転換を試みしました。

これまでのアカエゾマツの生育状況を見る限りでは、トドマツに比べ本地に適し、病虫害の害にも対応できていると考えられています。

現在、保育施業の効率化や主伐期における生産材の搬出コスト軽減を図るため、各団地において作業路網の整備を実施しており、平成19年度から平成23年までに延長約37kmを計画し、分収造林地内の総延長は約52kmとなる予定です。

現在、造林地では下草刈りや除間伐の保育が行われています。今年、モデル事業として、

◆分収造林事業のしくみ◆
共同で豊かな森をつくります
水源林を造成するために、山林の所有者が土地を提供し、造林者が事業の実行と管理を行い、それにかかる費用と技術的なノ

婦美団地（丸山地区）保育間伐の状況



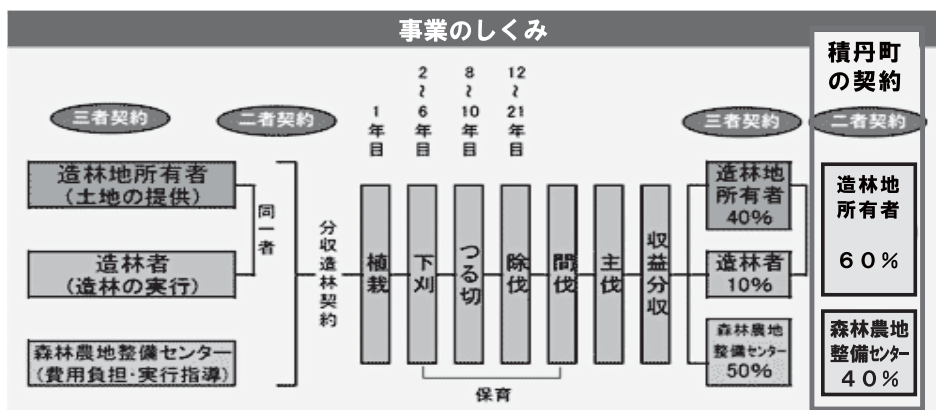
▲土場に集積された木材



▲間伐材を林内から搬出

保育間伐で生じる伐倒木を林内放置せずに造材し販売するとう全国的にも初めての試みが当町造林地において、地元建設業者により実施されています。建設業から林業へと異業種への取組としても期待されているところです。

ウハウを(御森林総合研究所森林農地整備センター)が提供します。そして、立木の販売収入などの収益は、三者で分け合います。植林から保育・伐採まで、造林地所有者、造林者、センターが一貫して取り組むことで、長期間にわたる山づくりを成功させます。



また、分収造林事業の費用負担者である国の機関は、昭和31年森林開発公団設立以降、平成11年緑資源公団、平成15年10月に(御緑資源機構、平成20年4月に一切の業務・権利を(御森林総合研究所森林農地整備センター)に引き継がれ、積丹町との二者契約による分収造林事業を推進しています。

町では森林を守り育てる取り組みを進めていきます。森林は私たちの生活にとってかけがえのない役割を担っていますが、当たり前すぎて森林の役割や機能を忘れがちです。森林の育成には50年から100年もの長い期間が必要です。

森づくりはすぐに結果が表れることではありませんが豊かな森と明るい未来を将来の子どもたちへと引き継いでいくためには、継続した取り組みが必要です。そして私たち一人ひとりが森林の機能を認識し、環境問題と向き合いながら、今できることを続けていくことこそ、将来の森づくりであり積丹町の未来につながっていくのです。

森林・林業・木材産業づくり交付金 (路網整備地域連携モデル)の事業概要

近年の公共土木工事の減少に加え、経済情勢が急速に悪化する中で、中小の建設事業者の経営環境は厳しい状況にあり、雇用機会の創出が課題となっていました。また、持続可能な森林資源の活性化を図るためには林内路網の整備により成熟する森林資源を循環的に利用していくことが重要です。

この交付金は、建設事業者の能力を活かし、民有林内の路網整備の推進を図るために実施する「作業道の整備」に対し交付金が交付されるものです。

【事業の概要】

路線名	林道区分	幅員(m)	延長(m)	計画総事業費(千円)	道費補助金(千円)
婦美第1号	基幹作業道	3.0	2,800	92,300	89,740
婦美第2号			1,400		
婦美第3号			610		
婦美二			1,600		
4路線合計			6,410		

路網の種類と役割

林内路網を形成する道の種類は、「林道」、「作業道」及び「作業路」がありその開設目的や利用形態等に依りて、適切に配置し、効果的・効率的な林内路網を形成することが重要です。

【林道】

林道は、森林へのアクセスを確保する基盤道であるため、コンクリートよう壁などの恒久構造物を設置し、長期にわたり使用できるように整備します。

【作業道】

作業道は、主伐やその跡地への植栽から下刈りまでの保育期間（5年程度）の利用などを目的に開設します。低コストな木柵等の構造物を設置します。

【作業路】

作業路は、間伐など、一時的な実施を行う地区に整備します。このため、構造物もほとんど施工しない最も低コストな道です。

森林の機能

①森林は『緑のダム』

森林は、落葉・落枝などの堆積物や土壌生物が多くすむ表土がスポンジのようになって、雨水をすみやかに地中に浸透させる働きがあります。この機能は裸地の3倍という報告があります。この機能により雨水はゆっくりと河川に流れることから、洪水や濁水が緩和されます。

このようなことから森林は『森のダム』といわれています。

水を蓄え浄化する



②『おいしい水』は森がつくる

森林が生み出す水は、雨水が地中に浸透する過程で水をろ過し、化学物質を吸い取って水を浄化しています。森林が生み出す水は汚れがなく、岩石の間を通ることによりミネラルを含みわたしたちの健康な生活に必要な飲料水になります。

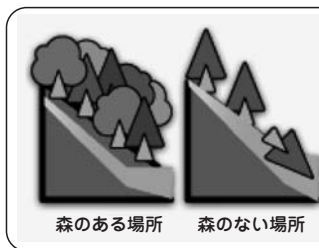
③森が魚を養う

森林から流れ出る水に含まれた豊かな栄養によって、海に生きる生物の生命をはぐくみ、魚介類が豊かになっていきます。

④森林は流出する土砂量を抑制する

森林内は、落葉・落枝や草木、草などによって地表が覆われているため、降雨などによる土壌の浸食や流出が抑えられています。森林と裸地を比較した場合、土砂が流出する量は森林では裸地の150分の1という報告があります。

山崩れをふせぐ



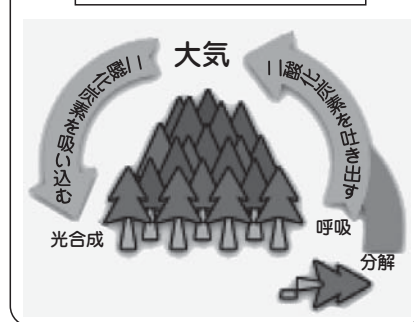
⑤森林は木材を生産します

木材はわたしたちの生活のあらゆる面に利用されています。木材を生み出す森林は、伐採しても適切な管理をすれば、何度でも再生が可能です。

⑥森林は地球温暖化防止に貢献

地球温暖化の主要な原因である二酸化炭素を森林は吸収・貯蔵しています。

地球温暖化を防ぐ



⑦その他の森林の機能

森林には美しい景観をはじめ、川のせせらぎや小鳥のさえずり等の音、すがすがしい香り、木の実やキノコの味覚など人の五感を通じて快適に感じさせてくれる働きがあります。そのため森林はレクリエーション活動や教育の場として活用していくことへの期待が高まっています。また、多様な野生生物が生息する場として重要な役割を果たしています。

近年では化石燃料の代替エネルギー（木質バイオマス等）として注目されています。